

【様式2】

学士教育プログラム学習教育目標とURGCC学習教育目標との対応関係表

学士教育プログラム名称

__経営学__ 学士教育プログラム

	URGCC学習教育目標	自律性	社会性	地域・国際性	コミュニケーション・スキル	情報リテラシー	問題解決力	専門性	
	<p>自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。</p> <p>市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身につけ、多様な人々と協調・協働して行動できる。</p> <p>地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。</p> <p>言語(日本語と外国語)とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。</p> <p>幅広い分野の情報や知識を多様なチャネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。</p> <p>批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。</p> <p>専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身につけ、活用することができる。</p>								
学士教育プログラム学習教育目標	<p>地域社会の発展に寄与できるような実践的なマネジメント能力の習得</p>		○	○			○	○	
		各専門分野におけるケーススタディや事例研究として沖縄県の企業を利用したり、地元企業で活躍している方や沖縄県出身で東京や海外で活躍している方をゲストスピーカーとして講義を行っている。また各教員が県下の各種委員会に参画したり企業研修を実施したりすることで産・官・学の連携を図り、将来、沖縄経済や地域社会に貢献する人材の育成と同時に門戸の開放に献身しているため							
	<p>高度な専門性と幅広い教養を併せ持つ総合的な判断能力の習得</p>					○	○	○	○
		経営学・マーケティング・会計学の各領域について学習することで、各領域における専門的知識を習得することができ、さらに学科共通科目や全学共通科目を学習することで幅広い教養を身につけることができる。そしてこれらの知識を統合したり体系的に整理することでコミュニケーション能力が高まり総合的に判断することが可能になるため							
	<p>国際社会で活躍できるように国際感覚の養成と外国語運用能力の習得</p>			○		○		○	
		英語による講義や演習を通じて語学力およびコミュニケーション能力の向上ができ、また外国語文献や雑誌等を通じて異文化の事例や情勢に触れることで国際社会に対する理解や適応力を身につけることができるため							
	<p>理論と実践の融合を実現するための能力の習得</p>	○					○	○	○
	経営学・マーケティング・会計学の各領域について学習することで、幅広い知識を習得できると同時に各領域における専門的知識を掘り下げることができる。そしてこれらの知識をインターシップ等の実践の場で活用することで、自発的に問題に取り組み、論理的思考の下で意思決定ができるようになるため								
<p>倫理観と価値判断能力の習得</p>	○	○			○	○			
	ゼミナール等の演習を通じて小集団における個人の役割とチーム成果の向上について学習することができ、また小集団や大学内でのルールを順守することで倫理観を形成し、社会規範やルールの基礎を構築することができるため								
	(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由)								